

4. 授業概要

4-1 授業風景



4-2 授業要旨

講義名：食への無関心が、実は国民の健康を害している	講義者：保田学長
講義日：2015年09月02日	場所：県民会館
講義概要： ①日本の農業の現在を作ったのは、日本人の食べ方の変化にある。米は安すぎる、作ってもお金にならない、売れない、米を食べない、結果、日本の食料自給率は下がった。 ②農業・漁業の衰退は「国民の農業・漁業に対する接し方」にある、無関心 ③無関心が実は健康を害している	
講義内容： 日本の農業の現況 国民経済での位置づけ、食への無関心が、実は国民の健康を害している 1. 死亡人口 120 万の 60%が 1 癌＋2 心疾患＋3 脳血管疾患、 時代の変化、食生活の変化の結果 老人病→成人病→生活習慣病 と名称変更、 食生活に変化（悪化）が血を汚している、その原因は ①高脂血症 ②高血糖 ③高尿酸血症 ④薬物汚染（農薬、添加物） ・ 直売所では農薬チェックはしていない 薬物は肝臓にダメージを与え次に腎臓を通っていく ・ 糖質制限 インシュリンの要求度が高い（ジャガイモ、小麦澱粉、米、さつまいも、里芋）などの食べ物は避けた方がいい 2. 何故 生活習慣病が増えたのか 飽食の時代、カロリーの摂取過多、運動不足 3. 食べ方の変化の結果は ①農業をダメにした ②病気を作った ③子供が病弱になり、食べ物無くなっている 社会を作った 4. 生命産業の現状 昭和 50 年・平成 H25 年 農・漁業 11 兆円 8 兆円・・・積極的生命産業 医療産業 4 兆円 40 兆円・・・消極的生命産業 5. 3 大死因 1 癌 2 心疾患 3 脳血管疾患 男性：大腸癌 食道癌が増加、大腸癌、50 年前は外国人の特有の癌とされた。 女性：大腸癌 乳癌が増加、生殖器官の癌が多い。骨粗鬆 骨密度のピークは 18 歳 後は徐々に減少していく、ピーク時値を高め、減少を緩やかにする。 ホウ素が防ぐ：骨からカルシウムが抜けていくのを 大根、蕪、白菜、漬物、干大根、小松菜に含まれるホウ素が防ぐ効果が期待される。	
講義名：課題 日本の食、激変を全解明	講義者：保田学長
講義日：2016年01月06日	場 所：県民会館 1203 号室
講義概要： T P P で史上最大の市場開放が始まる、太平洋をぐるりと囲む 1 2 か国。その国々でついに巨大な統一経済圏が動き出す。5 年半の交渉を経て大筋合意へところぎ付けた T P P（環太平洋戦略的経済	

<p>連携協定)。交渉国のGDP合計は 3500 兆円と世界の約 4 割をなす。</p>	
<p>講義内容：日本国内の各立場の見通し</p> <p>(1) 消費者</p> <p>① 関税率は下がるが為替レートの影響力が大きい、牛肉は現在の 38,5%から 16年後に 9%に、豚肉は0%に近づき、ジャム、オレンジ、ワイン、は現在の 16%から 6~8 年後には0%になるが小売価格はメーカー、流通業者次第であり、さらに為替レートの影響は関税の影響をはるかに凌ぐと予想される。</p> <p>② 食の安全への不安を増す。</p> <p>食品の輸入が加速すれば日本では認められていない食品添加物や、残留農薬の基準値を超えた食品が検査をすり抜けて入るケースが増え、また「遺伝子組み換えの表示が米国等の圧力で緩和されるのでは」等消費者団体からの心配の声があがっている。</p> <p>(2) 生産者</p> <p>① 売上高 700 万円以上の大規模農家の数は割合安定の予想だが、小規模、零細農家は減少がとまらない。</p> <p>② 農水省の評価：米、麦、牛肉・豚肉、乳製品、砂糖等の重要5項目で「影響軽微」また、国内主要 40 品目中 12 品目は「影響認めがたい」3 品目(コメ、小麦、大麦)は「国家貿易以外の輸入増大は見込みがたい」他の 22 品目は「影響限定的」3 品目(牛肉・豚肉、乳製品)が長期的には関税引き下げの影響あり。</p> <p>③ 畜産地域 北海道、岩手、宮崎、鹿児島、の畜産が盛んな道県で危機感が強く、先行き不安による就農意欲の減退、担い手のさらなる減少が懸念されている。</p> <p>(3) 農家への損失補償と農業を強くする「攻めの政策」の政府資金 6 兆円の予算</p> <p>① 畜産農家への補償：従来の 80%から 90%へ拡大</p> <p>② サトウキビ農家を守るためココア調整品等 糖価調整制度の厚遇</p> <p>③ ①、②が主体で「攻めの政策」への投資はあいまいになっている。</p> <p>(4) TPP発動 ① TPP交渉国間で最終合意の署名 ② 各国議会の承認 ③ 各国内の諸手続き等を経て 2016~2017 の発行が予定されている。</p>	
講義名： 食の安全	講義者： 保田学長
講義日： 2016年02月03日	場 所： 県民会館
<p>講義概要：</p> <p>1. TPPと食の安全・食品表示・遺伝子組み換え・残留農薬・成長促進剤・安全基準</p> <p>2. 肉の食べ過ぎで精子の質が下がる</p>	
<p>講義内容：</p> <p>1. TPPの持つ危険性</p> <p>① ISDS条項 Investor-State Dispute Settlement (対象国の制度・法律により外国企業が差別を受けた時対象国に損害賠償を請求するための手続き)</p> <p>② SPS Sanitary and Phytosanitary Measures (衛生と植物防疫のための措置)」</p> <p>③ コーデックス委員会 FAO 及び WHO により設置された国際的な政府間機関で、国際 食品規格等</p>	

を作成、TPP以降食品の安全性は保障できるか、(経済問題と同時に命の問題でもある)

2. 遺伝子組み換えや食品添加物の表示規制は現状どおり表示規制は守られるか

3. TPP以降は2国間での協議で決められていく部分が多くなる、米国は「遺伝子組み換え表示」を科学的根拠がないと主張すると予想できる。SPS協定では科学的根拠がない表示は非関税障壁と見なされる。

遺伝子組み換え、本当は遺伝子注入が正しい(GMO:genetically modified organisms 遺伝的に修正した作物 又は遺伝子操作作物)・虫が葉を食べると死ぬ、これにはある土壌微生物の毒性を遺伝子に注入する 大豆、トウモロコシ、ジャガイモ、薬物、慢性毒性は次世代への影響がある、遺伝子レベルで薬物は肝臓、腎臓に蓄積される、肝細胞の壊死の後肝線維化が進行、肝硬変から癌へと進行、生物は全て遺伝子組換え体。

肉の食べ過ぎで精子の質が下がる。精液1CC中 1億~1億2,000万が今や6,000万と言われている。帝京大調査では4,000~2,000万 しかも正常な精子は少ない。それは食事中の飽和脂肪酸の量と関連性があると言われる。魚などに含まれる不飽和脂肪酸の摂取が大事。

ヒト 精子 1回1億 vs 卵子500個/1生、染色体 精子23本 卵子23本。1次、2次(精)母細胞→卵(精)子へ46染色体が用意される。

講義名：マイナス金利 労働・賃金	講義者：保田学長
講義日：2016年06月01日	場 所：県民会館 1202号室
講義概要： ① マイナス金利 ② 新たなモノ作り ③ 労働・賃金	
講義内容： ① 金利とは、普通お金を預けると利子(お礼)がついてお金が増える。 マイナス金利だと預けるとお金が減る、銀行は、企業や個人にお金を貸し出すのが仕事ですが、日銀は平成28年1月29日にマイナス金利を導入した。「民間銀行が日銀に預ける当座預金金利をマイナス0.1%にすることで、短期から長期までの金利全般を押し下げ→貸出金利の低下→企業や個人の投資や消費を促し→景気回復→物価上昇、につながる」 *生活防衛にと、自宅などに現金を持とうと金庫が売れている。*有利な誘いにはのらない。 *現在の高齢者世代が、働き盛りの1976年頃から定期預金利子8.0%、住宅金融公庫金利5.5%、民間金融公庫金利6.5%だった。 *経済成長とは、前年に比べ生産量(お金の量)が増えて景気が向上していること。 ②新たなモノ作り、発展途上国は、資金の余裕がないが、モノを作れば売れる。(お金を借りたい人が多く、金利が上がる) 日本は、モノが売れないからお金を借りる人が少ない。現在日本は、成熟社会で豊かになり、工業製品等は満たされているから新しく買う必要がなくなり、仕事、生産、モノ作りが減少している。新たなモノ作りを考えていく必要がある。そして、どのような状況に於いても食は常に必要であり、その為の農業が重要である。ほうれん草 約3ヶ月で収穫、里芋 約6ヶ月で収穫、米 約5ヶ月で収穫(ハウス栽培をすればもう少し早く収穫も出来る) ③労働・賃金	

<p>1) 一般労働者賃金指数（事業所規模 5 人以上）と大卒初任給大卒の初任給は、2010 年の頃は高いがだんだんと低下傾向にある。</p> <p>2) 男女、雇用形態（2014 年）男女とも、正社員以外は正社員より給与は低い。</p> <p>3) 雇用形態、産業別所定内給与（2014 年）正社員以外の給与は正社員の給与の約 60%と低い。</p> <p>4) 男女、所定内給与（2014 年）学歴が高いほど給与は高い。</p> <p>5) 男女、教育、企業規模、所定内給与（2014 年）企業の格差により賃金格差、がある。</p>	
講義名：経済を大きく動かす人口	講義者：保田学長
講義日：2016 年 10 月 05 日	場 所：県民会館 902 号室
<p>講義概要：</p> <p>1 世界 16 カ国の人口長期予測（高齢化する国、若年増加の国）</p> <p>2 日本、中国、シンガポール、米国、の人口動態から読む世界経済の行方</p> <p>3 人口減少は希望だ。</p>	
<p>講義内容：</p> <p>1. 世界 16 カ国の人口長期予測（高齢化する国、若年増加の国）「米国、ドイツ、オーストラリア、フランス、中国、日本、タイ、韓国、ロシア、インドネシア、メキシコ、インド、ブラジル、アフガニスタン、ウガンダ、エチオピア」以上 16 の国の比較による、高齢化する国、若年増加の国の検討。経済に関する指標は数多くあるが、最も確実に、かつ長期で予測出来るといえるのが人口である。</p> <p>2. 日本、中国、シンガポール、米国の人口動態から読む世界経済の行方日本と同じく 1990 年、2015 年。2040 年を比較するだけで、経済発展を遂げた国は大なり小なり日本と同様に、現役世代現象、高齢者急増の道歩んでいることがわかる。</p> <p>3. 人口減少は希望だ。合わせて 23 億以上の人口を擁する東アジアと欧州で、既に生産年齢人口の減少に転じた。北米にもかつての勢いはない。だがこれは、世界経済が絶望な状態になるということではない。真のイノベーションを起こしているのは、生産年齢人口の減少する日本市場においても着実に売り上げを増やし、利益をだしているような企業だ。拡大ペースを弱めていく世界経済の中で生き残れるかどうかは、日本市場での成果でわかる。</p> <p>年率 1% 程度の生産年齢人口の減少は、一人当たり GDP 増加で相殺出来る。ゆとりのある一部高齢層の貯蓄を消費に回させる工夫こそこれを実現させる本当のイノベーションだ。</p> <p>これからのイノベーションは、感性と文化力の勝負なのだ。</p>	
講義名：少子化加速の危機精子の劣化が止まらない	講義者：保田学長
講義日：2017 年 09 月 06 日	場 所：県民会館 901 号室
<p>講義概要：精子数の減少 運動能力の低下 奇形精子の増加</p>	
<p>講義内容：</p> <p>現代日本では 10 組に一組の夫婦が、不妊に悩んでいる。そのうち女性に原因があるケースが 45% 男性に原因があるケースは 40%、原因不明が 15% と報告されている。この中で、男性原因の不妊の割合が年々増加傾向にある。</p>	

<p>男性不妊にも様々な原因があるが、圧倒的に多いのは精巣でうまく精子が作れない、いわゆる造精機能障害で精子の数の減少、運動機能の低下で奇形精子の増加による不妊である。</p> <p>この不妊原因に対する確立された治療法は、現在のところ見出されていないが、毎日の食事との関連にその原因があるのではないかと近年言われている。それは、毎日の食事における飽和脂肪酸の摂取量である。</p> <p>摂取量の多い男性の精子濃度は、摂取量の低い男性に比較して41%も低く、またオメガ3脂肪酸の摂取量が多い男性は、精子の奇形が少ない傾向が見出されている。つまり今後はオメガ3脂肪酸の多い青魚の摂取量を増やし、飽和脂肪酸の多い肉類、牛乳やバターなどの摂取量を減らすライフスタイルを導入することで、不妊治療につながるようになると思われる。</p>	
講義名：有機農業	講義者：保田 学長
講義日：2017年10月04日	場 所：県民会館 902号室
<p>講義概要：有機農業は、食料問題と健康問題の解決に繋がる。すなわち、有機農業による農業の活性化と安全で良質な食物を食する事により健康を保ち、医療費の増大を防ぐ。</p>	
<p>講義内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母乳汚染と有機農業運動 <ol style="list-style-type: none"> 1). 1970年10月 母乳から農薬検出、安全な食べ物を求める消費者運動が全国に広がった。 2). 1971年10月 日本有機農業研究会の設立 3). 1973年11月 兵庫県有機農業研究会の設立 2. 一楽照雄氏（1906~1994）の思想 <ol style="list-style-type: none"> 1) 協同組合社会を理想、本物の食べ物、本物の農業、本物の協同組合を目指す。 2) 天地有機の世界を学ぶ、有機農業の有機の語源 3. 天地有機の世界は山の森、土手や草むらに存在する。山の木、土手の草は、化学肥料や農薬に依存することなく繁茂している。 4. 山の腐葉土と雑木林の原理と応用、落ち葉等の植物性の有機物を主体に形成。 未醗酵な有機物は決して土中に混入させない。 5. 有機農業の基本原則、良い土をつくる→山の腐葉土に似た豊かな土づくり。そのためには、植物性の有機物を主体とした土作りが大切。 6. 山の腐葉土に学びつつ、野菜栽培にはもう一工夫、山の木はゆっくり、少しずつ成長→落葉の完熟堆肥だけで育つ。落葉堆肥に代わり完熟牛糞堆肥を適量用いる。 7. 生物は進化の過程で獲得した食べ方を変えない、化学肥料が野菜の病気の一番の原因。 	
講義名：社会保障制度	講義者：保田学長
講義日：2018年07月04日	場 所：県民会館 901号室
<p>講義概要：社会保障制度</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 25年以降に生産人口の減少が加速 求められる「支え合い」構造の転換 ② 子育て支援、仏やスウェーデン先例に所得向上と共働き促進がカギ ③ 「社会的孤立」を防ぐ地域共生社会 相談支援と伴走で生きる力回復 	
<p>講義内容：</p>	

① 政府は 2013 年、「社会保障と税の一体改革」の改革プログラムを取りまとめた。団塊世代の全てが 75 歳以上となる 25 年を念頭に、超高齢化社会を迎える中、20 年までに社会保障制度改革を進めてきた。今、考えなければならないのは、40 年の日本である。基本的課題は、「高齢化」から「人口減少社会」への突入に備えることである。向かうべき方向は「全世代型社会保障」への転換である。

これまでの社会保障は現役世代が高齢世代を支える「世代間の支え合い」が中心であったが、今後は限界に達するのは明らかである。現役世代の負担が過大となる恐れがあるので、高齢世代を中心に「世代内での支え合い」を強め、支え合い構造の再構築が不可欠になる。

「全世代型社会保障」は「全世代にわたるリスクや課題を全世代で支える」ことを基本に置く。背景には、国民生活をめぐるリスク・課題が高齢期のみならず、非正規雇用が急増した団塊ジュニア世代や子育てに苦勞する若者世代も含め全世代にわたってきていることや生産年齢人口の急減で、社会保障を支える社会資源(人材など)や現役世代という支え手が急速に減少してきていることである。

② 「早期の対応」を要する課題は、「結婚・子育て世代の支援」である。日本は出生率が低い。フランスやスウェーデンなどの高出生率国では、出生率は 20 代後半と 30 代前半の 2 つのピークがある。日本や韓国は出生率が低く、ピークは 30 代前半のみである。20 代から 30 代前半にかけて若者世代が希望通り結婚し、子どもを産み育てる環境にあるかどうか、出生率を決める大きな要素となっている。若者世代の雇用環境、すなわち、賃金水準や雇用形態、育児休業などの状況である。

若者世代が共働きできる環境づくり、特に仕事と子育ての「両立支援」強化が大事である。「全世代型社会保障」によって、結婚・育て世代を含めた「全世代にわたるリスクや課題を全世代が支える」ものへと転換させる必要がある。

講義名：土づくりの理論と方法—土づくりが農業の基本	講義者：保田学長
講義日：2018 年 11 月 28 日	場 所：県民会館 902 号室
講義概要： 1. 野菜は育てるもの、人間が作るのは土 2. いい土の条件 3. 土づくりの方法	
講義内容： 1. 野菜は育てるもの、人間がつくるのは土 <ul style="list-style-type: none"> ・野菜の根が伸びるためには、隙間の多い土が必要 ・活力のある根が育つためには、適度な水分、養分、pH、土壌微生物群が整っていることが必要 →理想の土＝山の腐葉土、土手の草むら ・人間の手助け＝作物にとって、いい生育環境（光、風等）といい土（土壌）をつくること。 2. いい土の条件 <ul style="list-style-type: none"> ・物理的条件：水はけのよい土、 団粒構造の発達した土＝大小の隙間が多い→土壌微生物の棲み処 ・化学的条件： 栄養バランス＝植物の必須元素 18 種類のバランスが良い土、pH のバランス＝ 	

pH5.5～6.5（弱酸性）くらいのバランス

- ・生物的条件：野菜の生育に役立つ小動物が生息＝クモ類、ゴキブリ類、ミミズ類等 有用な微生物が生息＝菌根菌、根粒菌、乳酸菌等 窒素固定菌の存在＝根粒菌、放線菌、光合成菌等→植物性有機物が必要

3. 土つくりの方法

- ・完熟牛糞堆肥＝野菜のごはんに相当（主として次期作物用）
- ・保田ぼかし＝野菜のおかずに相当（完熟牛糞堆肥で不足する有機質肥料）
- ・野草＝デザート的位置づけ

講義名：農業と経済

講義者：保田学長

講義日：2019年05月08日

場 所：県民会館 902号室

講義概要：

- ・農業だけの講義では面白くないと感ずる人もいるだろう。これに経済を絡めるといろんなことが見えて来る。経済の基本を理解すると新聞の見方も変わってくるだろう。
- ・国策により農業の在り方は大きく変わってくる。品目、生産量、価格、輸入、輸出、設備投資、労働力等々、農業に大きな影響を与える要因である。

講義内容：本日は、経済について考えてみよう。

I. 経済の基本

- ・経済の定義は、生産と消費（社会・暮らしの土台）の繰り返しである。このバランスが崩れると、種々トラブルが発生する。政治（政策）と深い繋がりがある。
- ・米価に関しては、重要なアイテムであり、昔から国でコントロールする必要がある。生産と消費はマーケットに任せることはできない。
- ・供給量と物価は常にリンクしており、需要と供給量の関係を調整する。利益が出ないと、供給量を調整することは一般的に知られていることである。
- ・昔は、社会全般に“欲望”が少なく生産量も低かった。その後、コマーシャル等で購買欲が掻き立てられ生産量が伸び、成長率が飛躍的にアップした。
- ・その結果として物価水準が上昇し貨幣価値が下がるインフレが発生する。
- ・生産力を高める為に、設備投資、技術革新、労働力（有能、勤勉）が必要。
- ・消費には、個人消費、設備投資、公共投資、在庫投資、輸出等があるが、政府が大きく関与できるのは公共投資である。
- ・経済評価を GNP（国民）から GDP（国内）に変更したのは実態を把握する上で正しい。
- ・栄枯盛衰という言葉があり、経済は常に成長するものではない。

II. 今後の日本経済

- ・日本経済は、現在では、成熟期に入っている。今後はマイナス成長に向かうだろう。
- ・安倍政権ではこれらを食い止める為、東京オリンピック、大阪万博のイベントで成長を狙っている。イベント効果は一時的なものであり、その反動は大きい。終われば、必ずや失業率の増大に繋がる。
- ・今までの時代ではそれ程使用できなかった石油を我々の時代で湯水のごとく使いすぎた。次世

代に残せなかったことは大きな問題である。

Ⅲ. その他

- ・しあわせの村での「しあわせ農場」は身障者支援の為の農場となっている。SGS が主となってボランティア活動でサポートしている。多数の方に参加頂きたい。

講義名：堆肥の効用と利用	講義者：保田学長
講義日：2020年02月05日	場 所：県民会館 1202号室
講義概要：	
①これから日本はどういう道を歩んだら良いか、サンデー毎日に掲載された寺島実郎氏の「工業生産力モデル」からの脱却、「食と農」を大胆に見直せ	
②有機農業 堆肥の効用と利用	
講義内容：	
<p>経世済民（世の中を治め、民を救う）社会を安定させるにはものが必要。最低限必要な食べ物。人間は作る前は木や草を採集する、種を植える、親から子へ伝達、食べなければ暮らせない、食糧を安定させてゆく、冬に備えて貯蔵（米の発見）豊かに安定する。食べ物を作らないで食べている人は貴族という、家を建て、衣服を作る器用な人、得意な人より交換し物を増やす。生産と消費の繰り返し・高度成長・繊維産業では戦後合成繊維ストックでアメリカの女性たちの需要があり、大量に輸出して行く。</p> <p>日本は今では生産が少なくなった、扇風機など日本に工場を置いても売れない、持っていない国において売れる。自動車、フォード流れ作業ベルトコンベヤー 大量生産（中国・ベトナム）、技術はドイツと日本。工業は本籍はあるが現住所は絶えず変わる、必要とされ流通性がある国に移転、高度な機械技術は変わらないが人件費が安い場所が変わるのが経済の流れ、次の世代大量生産の時代ではなくなる、大量生産の時代は満たされているが、先進国で次の時代ではどうなるか、工業では次の時代には仕事がない。経済とは生産と消費の繰り返し、かつての大量生産でない時代には手作り技術が伝承されていて、仕事があった。</p> <p>私たちは田んぼを潰すことはあったが、山に木を植えることはなかった、山を大事にしなくなった。気象状況が変わってきた、山地が裸になる、鹿に食い荒らされる、雨が降り、土が流され川に土がたまる。食を海外に依存し、耕作放棄地を拡大、山林を荒廃させたことが自然災害を増幅させた。棚田の有効活用等。これからの若者は町で働くのではなく、農業に従事、農産物の値段を高くしてやる。いかに農業を発達させるか。これからの時代は工業ではなく農業である。将来は町でなく村で仕事がある。最後まで綺麗な空気の中で暮らしたい。</p>	
・有機質資材・完熟牛糞堆肥・保田ぼかし・野草の土壌改善の関係	
・家畜糞堆肥の成分比較（牛糞・混合・豚分・鶏糞堆肥）牛糞堆肥は C/N 比が高く、窒素、リン酸濃度は低く、土壌改良資材としては最も効果が高い	
・物理的イメージ 団粒構造とその出来方	

講義名：新型コロナウイルス	講義者：保田学長
講義日：2020年06月03日	場 所：県民会館 902号室
<p>講義概要：</p> <p>1. 新型コロナウイルスは高温多湿で死滅する？ウイルスの顔と性格を知って、正しく恐れる</p> <p>2. 日本の経済事情、マイナス成長の時代 高齢者は何をすべきか？</p>	
<p>講義内容：</p> <p>1. ウイルスは生物か？ 単体では生きられず、動物の体内に侵入し増殖する。生物に近いタンパク質、新型コロナウイルスは密閉・密集・密接による飛沫感染、接触感染、エアロゾルと思われる吸入感染がメインで強い感染力を持つ。鼻や口から吸入され喉の粘膜より侵入し肺炎を誘発、重症化すれば死に至る。高齢者は免疫力が低く注意が必要、また糖尿病等、持病のある方、ヘビースモーカー、アルコール摂取過多の人も要注意。</p> <p>石鹸で手と顔をしっかり洗い自分を守りましょう。インフルエンザウイルスは低い温度と低い相対湿度（15～40％）で生存し、逆に相対湿度 50％以上で急速に死滅したという研究報告がある。よく似た新型コロナウイルスも夏季に湿度が上がる地域では終息に向かうということを期待して一日も早い終息を願いたい。この目で確かめてみましょう！</p> <p>2. 日本の人口構成は逆ピラミッド型。高齢者が 30％近くを占める。高度経済成長が終わり、安定成長期を過ぎ、今やゼロ成長、マイナス成長時代に突入。働き手の若い人口は減少。給与も上がらず結婚して家庭を持ち子育てするのに精一杯。高齢者を支える余力はない。高齢者は若者に負担を掛けない自立の生き方をすべきである。</p> <p>基本は健康に生きること、学んでヒントを得て考える、正しい食べ方を学び実践、食物を育てる・・・生産力を持ち続け子供や孫たちにお裾分けをする、喜ばれると嬉しく自信が持て活力が湧いてくる。</p> <p>◎シルバーカレッジ：「再び学んで他のために」</p> <p>◎シルバー大学院：「更に学んで次世代のために」</p>	
講義名：新型コロナ騒動これからの社会のあり方	講義者：保田学長
講義日：2020年08月25日	場 所：神戸市教育会館 501号室
<p>講義概要：</p> <p>1. NHK スペシャル食の起源 2 「塩」鑑賞 2. 50 歳以上の血圧基準値とは 3. 極端な減塩は逆効果</p>	
<p>講義内容：</p> <p>1. NHK スペシャル食の起源 2。「塩」人類をとりこにする本当の理由 2019 年 12 月 15 日放送分 鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アフリカマサイ人がヤギの乳 2 リットルだけで塩分摂取しない理由 ○塩分の取り過ぎが麻薬中毒者の脳に麻薬をほしがるタンパクと同じものが出る ○地球の生命が海水から進化し、人間もナトリウムなしでは生きていけない ○陸上に上がった祖先が舌で塩のセンサーが敏感になった ○農耕を始めたことで野菜などのカリウムを多く摂取すると ナトリウム不足になってしまう 	

<p>塩がサプリメントから最高の調味料になり、塩なしには甘味等おいしさを感じられなくなった</p> <p>○平均寿命が延び腎臓の機能が衰えるが鍛えられないので。健康寿命には減塩が大事</p> <p>2. 50 歳以上の本当の血圧基準値とは、一般的とされる高血圧の診断基準正常最高血圧 120～129mmHg 最低血圧 85～89mm、真の適正值は、年齢+90mmHg 70 歳で 160mmHG 高齢者は 160～180mmHG あっても問題はない</p> <p>3. 極端な減塩は逆効果 塩分と血圧、本当の話食塩摂取量と高血圧にはなんの因果関係もみられない、塩分摂取量が高い日本人は健康寿命も平均寿命も世界一、献立の中に塩分を排出する役割があるカリウムの多い食品を加える、りんご アボガド バナナ グレープフルーツ 海藻 キウイフルーツ。</p> <p>高血圧で本格的な減塩が必要な人とは 3 人に 1 人</p>	
講義名：野菜とは何か	講義者：保田学長
講義日：2021 年 08 月 26 日	場 所：教育会館 501 号室
講義概要：・野菜とは何か。 ・秋野菜の特徴。	
<p>講義内容</p> <p>・野菜とは何か。あらゆる動物は草を食べて生きている、採種を覚えて栽培するようになった。野草が変異を繰り返して食用に適したものが野菜になっていった。指定野菜制度で 14 種類の野菜が有る、特定野菜には 35 種類が有る。野菜を食べる意味とは、必要栄養素を接種する為。タンパク質、脂肪、炭水化物、ビタミン、ミネラル、食物繊維、機能性成分の 7 大栄養素が有る。野菜からの摂取はミネラル・ビタミン・食物繊維、機能性成分等が主である。野菜は人間に必要な必須元素 28 種類のうち 18 種類を供給する。</p> <p>S i (ケイ素) はイネ科の必須元素。ケイ素は人間のコラーゲンを強化する働きが有る。ビタミンには脂溶性と水溶性で 13 種類が有る、野菜から摂取する。食物繊維は消化酵素で分解されない。昆布には抗がん効果が有る。老化は酸化と糖化が原因である。</p> <p>・秋野菜の特徴。葉緑素には Mg が不可欠、Mg は骨の構成要素でもある。骨を強くするには葉物野菜を多くとる事。Mg、S i、B を摂取することが大事である。ホウ素を接種すると女性の骨粗鬆症の防止効果がある。ホウ素はアブラナ科の野菜に多い。</p> <p>現在の野菜はミネラル不足である、化学肥料では増えない。</p>	
講義名：日本の経済発展の歴史と農業	講義者：保田学長
講義日：2022 年 06 月 01 日	場 所：県民会館 902 号室
講義概要：日本の経済成長の歴史と農業構造の変化を考える	
<p>講義内容：日本の経済発展の歴史</p> <p>1. 高度経済成長期（年率 10%・1955 年～1972 年）オイルショック</p> <p>2. 安定経済成長（年率 5%前後・1975 年～1990 年）バブル経済崩壊</p> <p>3. ゼロ経済成長（年率 0%・1992 年～2007 年）リーマンショック</p> <p>4. マイナス経済成長（2010 年～現在）</p> <p>国の経済成長と給料アップは相関関係にある、</p> <p>生産の拡大要因 1. 設備投資 2. 技術革新 3. 有能な労働力</p>	

消費の型個人消費支出 2. 設備投資 3. 公共投資 4. 在庫投資 5. 輸出

現在は成熟社会となり、都市部では若者の仕事がない。

食べ物は、永久に需要がなくなるので農村地域の仕事なくなることはない。

我が国の農業構造の変化

耕地利用率の低下→耕作放棄地の増加（若者の仕事場の消失）

コメ・ムギなど主食の作付面積が激減（自国の食料を守る意識に欠ける）

→欧米先進国との違い（政治力の差→国民意識の低さ）

次世代の幸せを考えていない！

講義名：食料危機

講義者：保 田学長

講義日：2022年09月07日

場 所：県民会館 902号室

講義概要：

値上げの秋が来る（日本の食卓を襲う食糧危機・長期化必至の穀物価格高騰

講義内容：国際問題が深刻化

1. 食糧の高騰、加工食品 16%up 調味料 14%up 酒類・飲料 15%u 菓子 13%up 原材料(製粉など)13%up 2. 国際相場の不安定化、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻により穀倉地帯が戦場と化し、小麦、トウモロコシ、大豆の生産及び輸出のダメージが大きく影響。国際価格が急騰、小麦の価格構造日本の場合、政府は商社から引き渡された外国産の小麦を一括に買い付け、製粉会社などに売り渡している。10月以降の小麦価格を、当面据え置くための具体策を検討している。

3. ロシア産原燃料について、日本は輸入を段階的削減。国際的な燃料価格が高い水準で推移。

○国際価格の変動に左右されにくい基盤を作るには、食糧の国産化が急務、国内農業は、高齢化や耕作放棄地など課題が多い。

○自給が可能な米の生産は、半世紀続いた減反政策が要因で農業者人口が激減した。要因は、和食（米・野菜・魚）が減り、洋食化が進んだ

○国が奨励する小麦や大豆の生産は、なかなか広がらない。

○食料自給率（食料供給に対する国内生産の割合）は、品目別自給率と総合食料自給率の2種類がある。そして、総合食料自給率は、熱量で換算するカロリーペースと金額で換算する生産額ペースがある。日本の食料自給率(カロリーペース)38%に対して、カナダ 233%、豪州 169%、米国 121%、ドイツ 84%、英国 70%と、日本を大きく上回る。

○円相場が20年ぶりの安値水準に突入し、農業経営に欠かせない原油や肥料、飼料などの資材高騰に拍車がかかり、農業現場の一層の負担増が懸念される。資源を海外に依存する日本の課題が浮き彫りになった。今こそ、国を挙げて国産に切替える時期であり、日本の農業を支援すべき時だ。